

学長告辞

厳しい夏が去り、朝夕の風に秋の訪れを感じさせます本日、ここに関係各位のご臨席のもと、佛教大学通信教育課程 第23回後期大学院学位記 第67回後期卒業証書授与式、通学課程 大学院学位記 第71回後期卒業証書授与式を挙げていただけますことは、大変な喜びであります。卒業生・修了生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんの卒業、修了を、佛教大学教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日という日を迎えることができましたのは、お一人お一人がこれまでに積み上げてこられた努力が、具体的な成果として実ったということではありますが、それに加えて、皆さんを温かく見守ってこられたご家族や保護者、友人の方々などのご支援があったからに他なりません。ご家族や保護者の皆様、お力添えいただいたすべての方に、心から敬意を表し、お喜びを申し上げます。

本日、卒業・修了を迎えられた皆さんは、佛教大学でさまざまな知識や知見、技能・技術を得られたことと思います。また通信教育課程の場合は孤独な学びが必要であり、それに耐え、さまざまな制約の中で学習時間を確保し、学修や研究の成果をまとめてこられたことでしょう。特に新型コロナウイルス感染症にさいなまれた、ここ三年あまりの学生生活においては、これまでに誰も経験したことのない日常生活の中での学修であったと思いますが、そのような困難を乗り越えて今日に至られたことは、何ものにも替えがたい経験として、皆さんの今後の人生に活かされてくるものと思います。身につけられた知識や知見、技能や技術、学修や研究の成果、そしてそれぞれのご経験は皆さんを決して裏切りません。それらをしっかり携えて未来に向けて歩みを進めていただきたいと思っています。

さて、現在の私たちの生活においては、様々な場面でデジタル技術が基盤となっており、そのもとで世の中が動いていると言っても過言ではないでしょう。コロナ禍によって、このデジタル化は格段に進展しましたが、将来にわたっても、社会はデジタル技術やICT化、DX化の更なる進展とともに進んでいくことと思います。すでに誰もが知っているとおり、わずかな期間にChatGPTなど生成AIが飛躍的に発達し、社会のあり方そのものを変えるような状況が出現してきています。AI、「Artificial Intelligence：人工知能」は、テクノロジーの進化による産物の一つではありますが、認知科学・医学・哲学・心理学などあらゆる学問分野に利用できるものと捉えられ、注目されています。実際に医療の現場や金融取引で活用されていますし、仏教研究の分野においても、この新しい技術を活用した、仏教対話型AI「ブッタボット」が登場するに至っております。また、様々な分野でさらに進化が進み、仮想現実（VR）や拡張現実（AR）を組み合わせた、これまでにない新しい世界としての「テラベース」も開発されつつあります。このように、皆さんがそれぞれの学びを終えて踏み出そうとする社会は、デジタルという共通基盤のもと、めまぐるしく変化し、いままでに想像することもできなかった世界へと変容していく可能性を秘めています。

AI・人工知能をはじめとする今日的で新たな技術が、これからどのような現実社会をもたらすことになるのか、それを正確に予測することも困難となっています。ChatGPTに代表される短期間の急激な社会変化は、しばしば私たちに不安をもたらしますし、人工知能は私たちの生活を根底から変え

ていくのではないかと心配するおきもあるかもしれません。しかしながら、仏教を開かれた釈尊は、このような私たちの生きる世界を「無常」としてとらえ、世界は変化する性質をもつものであり、その中で私たちは生きていかなければならないことを、そしてその際に大切にすべき姿勢を示してくださっています。形あるものはいつまでもそのままの姿で世界にとどまるものではなく、必ず形を変え、変化していくものであり、形あるものはやがて壊れるものであることを、「無常」という教えは示してくれています。この教えは2500年前に釈尊によって語られたものでありますが、いま現在の私たちの生活にも、これからやってくる未来社会においても、変わらぬ真理として受けとめることができるものであり、私たちが基づくべき考え方、そして私たちが歩むべき方向を正しく示してくれているものと考えます。

本日卒業・修了される皆さんは、生成AIに代表されるICT化が急激に進展する時代に向き合っていかなければなりません。また、自然環境の面でも、政治・経済・文化的な側面からも、これから私たちが直面していく社会は、文字通り、劇的に、急激に変化を続けていく社会となります。そのような激動する社会の中で生きていくために必要な知識や知見、技能や技術を皆さんはそれぞれに佛教大学で身につけられ、いま、力強く社会への第一歩を踏み出そうとされていると思います。佛教大学で学ばれ、体験され、身につけられたすべての力を総動員して、本学の卒業生としての自覚と自信を持って、それぞれの次なる目標に向けて、着実な歩みを続けていただきたいと考えます。そして、そのように歩み続ける皆さんを、私たちは変わることなく応援し続けてまいります。

本日で一旦は皆さんの学びが終了しますが、先に述べました通り、時代の急速な変化の中では、新たな学びが必要となるときもやってくるだろうと思います。変化する社会に対応しながら、それぞれの持っている力を存分に発揮するために、学び続け、考える力を更に高めていくことも必要となるでしょう。そのような皆さんの学びの場を、私たちは、ここ佛教大学に用意し続けています。もっと学び続けたいとき、もう一度学び直したいとき、あるいは悩んだり迷ったりしたときは、是非、佛教大学に帰ってきてください。教職員一同、皆さんの再訪をいつでもお待ちしております。

最後に、今後の皆さんのご健康とご活躍をお祈りし、告辞といたします。

卒業・修了、本当におめでとうございます。

令和5年9月30日

佛教大学長 伊藤 真宏